

共催・後援 名義使用承認申請の手引き

いしかわ結婚・子育て支援財団では、子育て・子育てや結婚、それらの支援推進に寄与すると認める取り組みについて共催・後援を行っています。

1 共催・後援の区分

(1) 共催

当財団以外の者が主たる責任者として企画実施するもので、子育て・子育てや結婚、それらの支援の見地から奨励の意を表すると共に、主催者の一員として当該事業に参画(財源措置含む)するもの。

(2) 後援

当財団以外の者が主たる責任者として企画実施するもので、子育て・子育てや結婚、それらの支援の見地から奨励の意を表するもの。(財政措置及び職員の派遣等はいたしません。)

(3) 対象とならない取り組み

次に該当する場合は、いずれの名義も使用承認はできません。

- ・政治的又は宗教的中立性を侵すおそれのあるもの
- ・公序良俗に反するもの又はそのおそれのあるもの
- ・営利性が強く、営利事業であると認められるもの又はそのおそれのあるもの
- ・暴力団と関係があるもの又はそのおそれのあるもの
- ・同人活動等で社会性に乏しいもの
- ・広く一般県民が参加できないもの
- ・客観的にその実施の確実性が疑わしいもの
- ・当財団の名誉をき損するおそれ又は信用を失墜するおそれのあるもの
- ・その他、共催又は後援を行うことが不相当と認められるもの
- ・当財団の助成事業として関与している事業についても、共催・後援対象事業としては取り扱いしません。(成果物への明記の仕方については助成事業担当者にお問合せ下さい。)

2 申請の方法

(1) 受付期間

所定の様式により、事業実施日の1ヵ月前までに申請(提出)してください。

(2) 申請に必要な書類

前項目を遵守可能な場合は、次の書類を揃えて提出してください。

1) 共催・後援名義使用承認申請書

※申請書は、手書き/パソコンどちらで作成されても結構です。

※申請者は、主催団体の代表者でお願いします。

※事務担当者の連絡先は、携帯電話番号など連絡のとりやすい番号を記入してください。

2) 主催団体の概要がわかるもの

※規約・会則、役員名簿(実行委員会では構成員)、活動実績、総会資料等

3) 事業の概要がわかるもの

※実施企画書、パンフレット・チラシ案(原稿)等

※前年度に実施歴のある事業であれば、その際の成果物などを添付してください。

4) 収支予算書(共催申請の場合、もしくは後援申請で参加費が有料である場合)

※入場料や資料代等の名目に関わらず、後援申請で有料事業の場合は添付してください。

(3) 備考

- ・ 諾否のご連絡には約2週間程度の日数を要します。
- ・ 行事内容を把握するために、書類を追加提出していただく場合があります。
また、書類に不足がある場合は、承認許可できない場合がありますのでご了承ください。
- ・ 申請後あるいは承諾通知後に内容に変更が生じた場合は、速やかにご連絡ください。
ただし、変更の内容によっては承認を取り消す場合があります。
- ・ 催事ごとに判断しますので、類似事業であっても承認許可できないことがあります。
- ・ 承認歴のある事業であっても、手続きの様子を含む過去の経緯も踏まえて審査します。
- ・ 提出された個人情報については、共催・後援承認に係る事務以外には使用しません。

3 報告書の提出

(1) 提出期限

所定の様式により、事業終了後1ヵ月以内に報告(提出)してください。
※提出がない場合、今後の申請については受理できなくなりますのでご了承ください。

(2) 報告に必要な書類

次の書類を揃えて提出してください。

1) 共催・後援名義使用事業報告書

※チャリティー等の場合は、実施報告書に寄付金額を明記するとともに、領収書の写しを添付した収支決算書を提出してください。

2) 印刷物・成果物

※案内チラシ、当日パンフレット、報告冊子など

3) その他、事業の様子を把握するために有効な資料

※できるだけ画像を添えて下さい。
※参加者に対するアンケート結果や報道記事などがあればありがたいです。

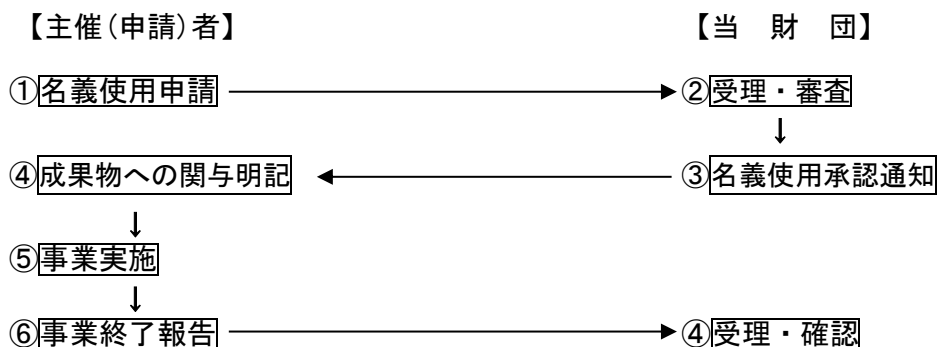
4) 収支決算書(共催申請の場合、もしくは後援申請で参加費が有料である場合)

※入場料や資料代等の名目に関わらず、後援申請で有料事業の場合は添付してください。

(3) 備考

- ・ 行事内容を把握するために、書類を追加提出していただく場合があります。
また、書類に不足がある場合は、承認許可できない場合がありますのでご了承ください。
- ・ 催事ごとに判断しますので、類似事業であっても承認許可できないことがあります。
- ・ 提出された個人情報については、共催・後援事務以外には使用しません。

4 手続きの流れ



共催 後援 名義使用承認申請書

令和 年 月 日

公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団
理事長 笹川裕樹様

〈申請者〉 所在地 〒
名 称
代 表 役職
氏名
〔 事務担当者
T E L 〕

下記の主催事業について、共催 後援 名義の使用をご承認下さいますようお願いいたします。

事業名	
期日・期間	
場 所	
目 的	
実施内容	・参加予定数 人
入場料・参加費 (いずれかに✓)	・ 無料 ・ 有料 (おとな 円 子ども 円)
他に依頼中 の後援先	
前回もしくは 前年度後援歴	・ なし ・ あり (年 月開催 催事名 :)

【イベント保育室の開設】希望を伴う場合は、以下もご記入ください。

開設場所(室)	(約 m ²)
預かり児数	約 名 (3歳児未満: 名、3才～未就学児: 名、小学生: 名)
開設経費負担	・ 主催者側が負担する。 ・ 当財団が負担する。

事務局処理欄	子育て支援 子育て支援 結婚支援 PP 関連企業 その他
--------	------------------------------

共催 後援 名義使用承認申請書

令和7年4月10日

公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団
理事長 笹川裕樹様

〈申請者〉 所在地 〒920-8201 金沢市鞍月東 2-1
名称 いしかわ赤ちゃん登校日実行委員会
代表役職 実行委員長
氏名 石川 育児朗
事務担当者 鞍月 育子
(通知の送付先が上記と別の場合は記載してください)
TEL 012-3456-7890

下記の主催事業について、共催 後援 名義の使用をご承認下さいますようお願いいたします。

事業名	赤ちゃん登校日
期日・期間	令和7年6月1日 ~ 令和7年12月31日
場所	〇〇市立 △△小学校 ほか
目的	赤ちゃんとその親との交流などを通し、児童・生徒が人と向き合う際の基本的なマナーや聴き方、伝え方などコミュニケーションについて学習・試行しながら、仲間や家族等の「身近な人との関わり方」について再考する機会を提供する。
実施内容	1 赤ちゃん登校日 生後5か月前後の乳児とその保護者と児童生徒との関わりをとおしたコミュニケーション再考授業 ・教職員事前研修 9/1(○) ・事前学習 9/10(○) ・かかわり体験 9/18(○)、10/26(○)、11/24(○) ・参加予定数 児童生徒30名 親子30組 2 指導者養成研修 赤ちゃん登校日プログラムの理解と具体的な指導解説 ・全3回 9/10(○)、11/24(○)、12/7(○) ・参加予定数 教員関係者20名
入場料・参加費 (いずれかに✓)	・ 無料 ・ 有料 (おとな 円 こども 円)
他に依頼中の 後援先	石川県教育委員会
前回もしくは 前年度後援歴	・ なし ・ あり (R6年9月開催 催事名: 赤ちゃん登校日)

【イベント保育室の開設】希望を伴う場合は、以下もご記入ください。

開設場所(室)	〇〇市立 △△小学校 1F 和室 (約 30 m ²)
預かり児数	約 4 名 (3歳児未満: 2 名、3才~未就学児: 2 名、小学生: 名)
開設経費負担	・ 主催者側が負担する。 ・ 当財団が負担する。
事務局処理欄	子育て支援 子育て支援 結婚支援 PP 関連企業 その他

共催 後援 名義使用承認事業報告書

令和 年 月 日

公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団
理事長 笹川裕樹様

〈報告者〉 所在地 〒
 名称
 代表 役職
 氏名
 [事務担当者
 T E L]

共催 後援 名義使用承認事業について実施終了しましたので、下記のとおり報告します。

事業名	
主催・後援等	主催 後援
期日・期間	
場所	名称 所在
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・参加数 人 (おとな 人 こども 人) ・参加費 円 (おとな 円 こども 円) ・保育室 人預かり
参加者の反響 及び 主催者の所感	
その他	別添資料のとおり

共催 後援 名義使用承認事業報告書

令和8年1月12日

公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団
理事長 笹川裕樹様

〈報告者〉 所在地 〒920-8201 金沢市鞍月東2-1
名 称 いしかわ赤ちゃん登校日実行委員会
代 表 役 職 実行委員長
氏 名 石川育児朗
〔 事務担当者 鞍月育子 〕
T E L 012-3456-7890

共催 後援 名義使用承認事業について実施終了しましたので、下記のとおり報告します。

事業名	赤ちゃん登校日
主催・後援等	主催 いしかわ赤ちゃん登校日実行委員会 〇〇市立 △△小学校 後援 石川県教育委員会、
期日・期間	令和7年6月1日～ 令和7年12月31日
場 所	交流授業 〇〇市立 △△小学校 体育館（〒000-0000〇〇市〇〇町〇〇 0-0-0） 養成研修 いしかわ子ども交流センター（〒000-0000〇〇市〇〇町〇〇 0-0-0）
実施内容	①“コミュニケーション”について学んだ児童に、乳児とその親との関わり体験（試行）機会を提供しながら、クラスメイトや家族など身近な人との関係再考を促した。 参加 6年生 30名 + 親子30組 60名 期日 事前学習 9/1（〇）、かかわり体験 9/18（〇）、10/26（〇）、11/24（〇） 場所 〇〇市立△△小学校 体育館 ②赤ちゃん登校日プログラムの根幹にある“コミュニケーション”について再考してもらいながら、それを育む必要性や具体的な指導方法について解説した。 参加 25名 日時 令和4年9月24日（〇） 10:00～15:00 場所 いしかわ子ども交流センター ほか ・参加数 115 人（親子 30組 60人 児童 30人） + おとな 25人 ・参加費 0 円 ・保育室 4 人預かり
参加者の反響 及び 主催者の所感	会場はやわらかい、あったかい表情でいっぱいになった。事前学習で学んだことを、一生懸命に生かそうとして赤ちゃん家族と向き合う子ども達。その緊張感も丸ごと受け止めてくれる赤ちゃんや赤ちゃん家族。受け止められ、認められる満足感で心が満たされる。なんともいえない幸せであふれる空間となった。 ここで、真剣に考えなくてはいけないことがある。「なぜ、日々の生活や授業では、この表情はうまれないのか…。」答えは明確である。大人達が赤ちゃんのように、まるごと受け止めていないからである。その事実を認め合える空間を日常のものにしなくてはいけない。
そ の 他	別添資料のとおり